

---

# 何か大切なもの

時雨修

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

何か大切なもの

### 【著者名】

Z七三六五D

【作者名】  
時雨修

### 【あらすじ】

子どもの家でくらす僕。「何か」に怯えるりょう。「何か」を探すたくま。理解してくれている優しいお姉ちゃん。温かい家族でくらすこと何が大切かに気づけた僕

(前書き)

少かりとくことわせりぬるなれど

僕が子どもの家に来てからもつすぐで五年がたつ。

僕の親は六歳の時に離婚した。

父親に引き取られたが、虐待されていたことを近所の人者が知り、警察に追放され僕はここにきた。この家では、僕のようなケースは珍しくない。ここに住んでいる子どもが皆、何か理由があつて一緒に暮らしている。お互いに何があったのか話すことはないが、自分と同じような境遇だったことは分かるのだ。

入ってきたばかりで、まだ馴染めていない小学二年生のりょうとたくまを見て、自分も四年前は同じよう、どこかおどおどしていたことを思い出した。

りょうひとも

「何か」に怯えていた。小学校で見かけても口もきかずに、辺りをキョロキョロ見回してどこかに行ってしまう。

たくまはずつと

「何か」を探している。

「何を探しているの?」と聞いても、わからないと答える。

「何か大事なものがないように思うんだけどなあ」そう言つてまた

「何か」を探し始める。僕にはなんとなく分かつている。

同じこの家に住んでいるお姉ちゃんも「一人のことはちゃんと理解してくれているようだ。りょうがそわそわしている時には、皆を自分の部屋に呼んでくれてゲームやトランプなどをして遊んでくれる。学校の勉強と部活で忙しいのに、本当に優しいお姉ちゃんだと皆が言っている。僕もその通りだと思つ、そしてそれ以上に僕たちのことを良く理解してくれている。

お姉ちゃんはたくまの探しものはないあるよと言っている。たくまはわかつていなーいが、お父さん（養父）とお母さん（養母）はそれをきいてやさしく微笑んでいた。僕はそれをみてわかつた。

僕とお姉ちゃんとりようとたくま、そして母と父、今は六人で生活しているけどもうすぐ春になるのでまた家族が増える。そしたらりょうの不安はなくなつて、たくまも

「何か」を探すことが減つてくるだろ？

皆が一番求めるもの。

ごく普通に、自然に欲しいと思つものが、ここにもちゃんとある。それを僕に教えてくれたのは、温かく、かけがえのない、新しい家族だった。

(後書き)

皆さんもこの「何か」を大切にしてください。これさえあればなんでも出来ますよ（・・）！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7365d/>

---

何か大切なもの

2011年1月6日14時31分発行